

## トラックス クラウド型運送業務管理システム「ドライブドア」開発 全ての業務を完結

トラックス（千葉県市川市）は、クラウド型の運送業務管理システム「Drive Door（ドライブドア）」の提供を開始した。「これまでシステムに抵抗があった経営者の方たちにこそ使ってほしい」と語る松尾中彦社長に話を聞いた。

背景にあったのは、「コスト面を含めて、運送会社にメリットのあるサービスを提供したい」という同社長の想い。それを形にするには「クラウドという形式がベストだった」と、サービス開発の経緯を語る。同社とユーザーが双方向から関わることで常に「成長していく」というユニークな形態をとる。



使い勝手やインターフェースに関するユーザーからの意見をもとに、最低でも四半期に一度はバージョンアップを実施。「ユーザーは無料で更新できる。何か要望があれば、『同じニーズを持つ事業者が必ずいるはず』と考え、機能を追加し常に改善し続けていく」という。

配車管理から収支管理まで、運送業での管理業務全般の機能を提供。「運送業を深く理解し、業界特有の管理の仕組みは全てカバーしている」とし、「これまで、スタンドアロン型で各社からさまざまなシステムが提供されてきたが、そのほとんどの機能を搭載している」と胸を張る。帳票レイアウトもユーザーが自由に変更でき、原価計算も可能だ。